

# 夕刊

## 友部株式

発行日四十月七  
（刊休日翌日祭曜日）

### 随筆 梅雨ばれ

島田忠夫 (3)

○七夕祭の歌謡  
去年、本紙『暮城』主催で募集した『七夕祭』の唄に、自分も応募した。その際、賞金なども頂いたのであるが、あれは最近更に手を加えて、『七夕祭』の歌謡を完成した。作者もほぼ決定してゐるから、近く御報告できやう。ここには、改作の歌謡を掲げて置く。

七夕祭  
ハア一 星の戀  
年にひと夜  
七夕さまが  
はれてネ  
はれて蓬ふ潮の  
宵まつり  
サアサ タナバタ ヨイ  
トヨイトナ  
サアサ タヒラ ヨイ  
トヨイトナ  
ヨイ  
（以下離子同じ）

ハア一 添ひ添ひ  
想ひ出すさへ  
はづかし今宵  
二人ネ  
ふたり作りの  
星かさざり  
ハア一 遠燈  
磯山にはんのり  
濱にはチラリ  
なかの平は  
宵花火  
ハア一 想ふこと

七夕まつり  
いとしお方は  
何處で見  
ハア一 ほのぼのと  
曉の明星  
鎌田の土手に  
おもひ  
おもひ  
別れ星

寂しき朝夕  
青空のごと  
晴れて明るき心にあらず  
水晶のごと  
澄みて静けき心にあらず  
六月のばらの紅に燃ゆる  
と  
深く苦し胸に沈めて  
哀れ寂しく朝夕を  
聰明なる人と呼ばれて  
もだして歩む、あきらめ  
の路を

水軒所見  
池塘雨霽雲煙  
一陣涼風意自澄  
出水荷花清可掬  
宵征三五燦如星

七月題詠  
一、青  
歌數隨意  
締切七月二十五日

浮かんた事  
小野繁  
歌人は小さい短歌世界を  
築いてそれに安住してゐる  
といふ。しかし僕はみんな  
ふたりの文壇、詩壇を  
徒にあこがれて、その足跡  
をなまめはつてゐるに過ぎ  
ない、と彼は言つてゐる

いけ花  
大竹秋平  
君のなさけて  
とこのまの  
かびんに咲いた  
すづらんよ  
はかない身とは  
知りつつも  
君のなさけに  
ほかに  
はかきか  
にはよ今日昨日  
君のなさけて  
さいた花

も限らん  
さうして、四人の間に、  
歸國が決定された。  
金は一條の手許に、グア  
ンロードに清算させた、三  
百非除の返却金があつた  
船貨は四人分二百非だ  
百非除り残つた。その一部  
をさいて、各自既製品の洋  
服を一着宛買った。  
和喜次は、渡米當時の、  
牛馬の如き労働を、彼等は  
強ひられてゐるのです。  
一條が説明した  
「益々怪しからん。御注意  
願附に願へません。では早  
速雇主とも縁を切りませう  
歸國まで、同居させて置か  
ない。と、その事にお願ひ  
す。別れるとなると、四人で  
涙、しものものが頬を濡ら  
した。  
（おい高橋。何を珍らし  
く考へこんでゐる。ハッ  
ッ）  
一條が肩を叩いて笑つた  
和喜次は答へなかつた  
（感慨無量と言つた顔だ  
な）  
一條が去つて行くと、和  
喜次は陣を果て、悠々と  
遠ざかつてゆく港を見た  
船の速度が増した  
海は澄々と、徒らに廣  
つてゐた。敢て一年半除  
の生活の思ひ出を浮べて、  
金門海の波頭には、秋が、  
しらすと動いてゐた

高橋是清  
松浦泉三郎作  
佐々木今朝吉書  
故國へ (五)

然し次の瞬間、城山は  
う笑はなかつた。彼が矢張  
りグアンロードの世話で渡  
航した事實が判つて、一條  
が、そのグアンロードに就  
いて語つたからである  
『そりや怪しからん！』

世渡り、歌増渡り、うま  
いのに感服する。彼等は堂  
々たる歌人である。作品も  
た  
「これ以上待つのはた  
まらぬ。何分気がかりで居  
られん。矢張何かしら、懐  
かしさを呼ぶものがあつた  
のであつた。グアンロード  
夫妻、オーランドの



御座います。  
毎度有難う

洋食 喫茶 宴会  
コンパル  
平町電話666

### 魚は凍魚

日本水産特約  
平製氷會  
電話二八三三六

御座います。  
毎度有難う

### 御挨拶

酷暑を迎へます折柄謹みて皆々様の  
御健康を御祈り申上げます。今  
御健康を御祈り申上げます。今  
御健康を御祈り申上げます。今

### 水野化粧院

本社 水野野  
電話 自宅四軒町水野商店五三五番  
御得意の皆様方に

### 照山株式会社

主任 常盤光威  
福島縣平町田町五  
番 電話 東京八八八六番  
電話 東京四一六番

### 關影商店平支店

本店 水戸線下館驛前  
電話 六一番  
（電話五五三三九番）  
茨城縣土浦町田町  
（電話八二四）

### 博盛堂

神佛祭葬具一式  
造花製造販賣  
引物一式取扱  
其他旗類一式取扱

### 根本婦人科醫院

平町南町五二  
根本 婦人科醫院  
根本 莊次郎  
根本 貞雄  
電話 三四番

### 井坂醫院

産科 午前宅診  
婦人科 午後往診  
花柳病科 入院應需

### 和久井屋

銅器竹器中籠盛花投入式  
生器用花器  
平町 和久井屋  
電話 四〇五番

### 石川亭

例年の通り  
やな川鍋を  
始めました。  
御一人前 金二十五錢  
御二人前 金四十五錢  
出前は迅速に御用便を勉めます。  
其他御料理は御望に依り調理致します。

### 木村外科醫院

内臓外科一般 (入院隨意)  
外科花柳病科  
平町六丁目 (橋際)  
電話 三〇九

### 上田醫院

入院隨意 (自然の便あり)  
外科 午前  
先科 午後  
線科 午後  
科門 午後  
病室完備  
（電話 二一九）

待望の熱波訪れて 愈々天候は正常復歸

軌道に乗って夏の世界展開

消解鬱憂

紀伊半島沖合の、未だやうど七月のは同村荷馬夫で組合長は...

東北振興株 好問、飯野決る

東北振興株 好問、飯野決る

好問村では村会を開き東北振興株各五十株を引き受け...

好問の一部併合は 結局縣で幹旋か

市制準備に町の見解

市制施行を急ぐ町の隣接高工生並に日大専門部生、村合併交渉は既報の如く...

田人信組 事業開始

永い間の 縣案で 充分内容を調査せよとの...

興せ東北の熱潮

昨夜の講演概要

単に産業開発、經濟能力の向上ばかりでなく東北地方の人口増殖、文化の發達を意味する...

学生班實測

今年度 工費七萬圓で着工する蛸田川並に鯉川橋の實測に蛸田川は...

不安な昨今の天候 凶作再來を懸念

郡下技術員會で対策

郡下町村農會技術員會は昨日十三日午前十一時から四回...

沿線の物資を調査し 更に第二段の運動か

陳情團昨夜歸る

地方民多年の懸念を 勿來平 道改良現任促進會期三日...

川部新鑛 十日から出炭開始

大日本炭礦川部新鑛は一月十日から出炭開始...

橋式開式 本年新装成つて

本年新装成つて 橋式開式 本年新装成つて...

沿線の物資を調査し 更に第二段の運動か

地方民多年の懸念を 勿來平 道改良現任促進會期三日...

カ車延長運 轉も陳情

小麥收穫收量狀況、大麥更に一行は東鐵局に村上局...

拈笑(題問の日)

選挙區、出身地から 牛に引かれて善光寺参りなどは...

警官の誰何に 怪青年頑強に抵抗

今曉一丁目地内の捕物 今十四日午前四時頃平町大...

裁判長の訓告に 詐欺漢平然退廷

稔谷二年を言渡さる 他人の石綿山で五百圓を騙...

山田に四月 直に控訴す

平町好町一九着連業線雨事 山田政好(三)に係る住居侵...

區長殺し再び迷宮へ サンザ氣を揉ませた

罪な失踪一青年歸る 帳を抵當にその場はどう...

悪どい汚損 小商店員入用 御希望の方は...

飾窓にコルター 下手人の目星つく...

阿部石炭商店 電話三七七番

店の新造早々の煙草のウキ...

天気 豫報

今晩は南の風時一時曇...

雨の日の活躍は 敷島の雨具で 良品廉賣に勝る商略なし 磐城セメント特約代理店 釜屋商店